

平成24年3月期決算の概要①【損益の状況】

1. 足利ホールディングス連結

◇連結粗利益は、足利銀行の業務粗利益が前年度を下回ったことを受け、831億円(前年比▲49億円)となりました。また、営業経費は624億円(同比+25億円)となりました。  
 ◇一方、与信関係費用の減少(同比▲64億円)と株式等損益の増加(同比+23億円)等により、経常利益は172億円(同比+14億円)、当期純利益は171億円(同比+11億円)となりました。

(単位：億円)

	22/3期 実績	23/3期 実績	24/3期 実績	23/3期比
連結粗利益	957	881	831	▲49
営業経費(▲)	581	598	624	25
与信関係費用(▲)	125	114	50	▲64
株式等損益	▲12	▲18	5	23
経常利益	246	157	172	14
特別損益	7	▲4	▲1	2
当期純利益	254	159	171	11

2. 足利銀行単体

◇業務粗利益は818億円(前年比▲42億円)となりました。これは、貸出金利回りの低下等による資金利益の減少(同比▲38億円)と国債等債券損益の減少(同比▲13億円)が主な要因です。  
 ◇経費は、新システムへの移行に関連したシステム経費の増加等により、541億円(同比+25億円)となり、その結果、実質業務純益は277億円(同比▲67億円)となりました。  
 ◇一方、与信関係費用が38億円(同比▲47億円)に減少したほか、株式等損益が17億円(同比+19億円)となったこと等により、当期純利益は前年同水準の254億円となりました。

(単位：億円)

	22/3期 実績	23/3期 実績	24/3期 実績	23/3期比
業務粗利益	936	860	818	▲42
資金利益	737	692	653	▲38
役務取引等利益	104	98	106	8
その他業務利益	94	70	58	▲12
国債等債券損益	88	63	49	▲13
経費(▲)	496	515	541	25
うち人件費(▲)	239	250	257	7
うち物件費(▲)	228	239	257	18
実質業務純益	440	344	277	▲67
コア業務純益	351	281	227	▲54
一般貸倒引当金繰入額(▲) ①	(+)▲18	—	(+)▲25	(+)▲25
業務純益	458	344	303	▲41
臨時損益	▲58	▲95	▲47	48
不良債権処理額(▲) ②	107	93	75	▲18
償却債権取立益・貸倒引当金戻入益 ③	—	—	10	10
株式等損益	50	▲2	17	19
経常利益	399	249	255	6
特別損益	6	▲1	▲1	▲0
償却債権取立益・貸倒引当金戻入益 ③	9	7	—	▲7
当期純利益	401	254	254	0
(注) 与信関係費用=①+②-③				
与信関係費用(注)(▲)	79	86	38	▲47

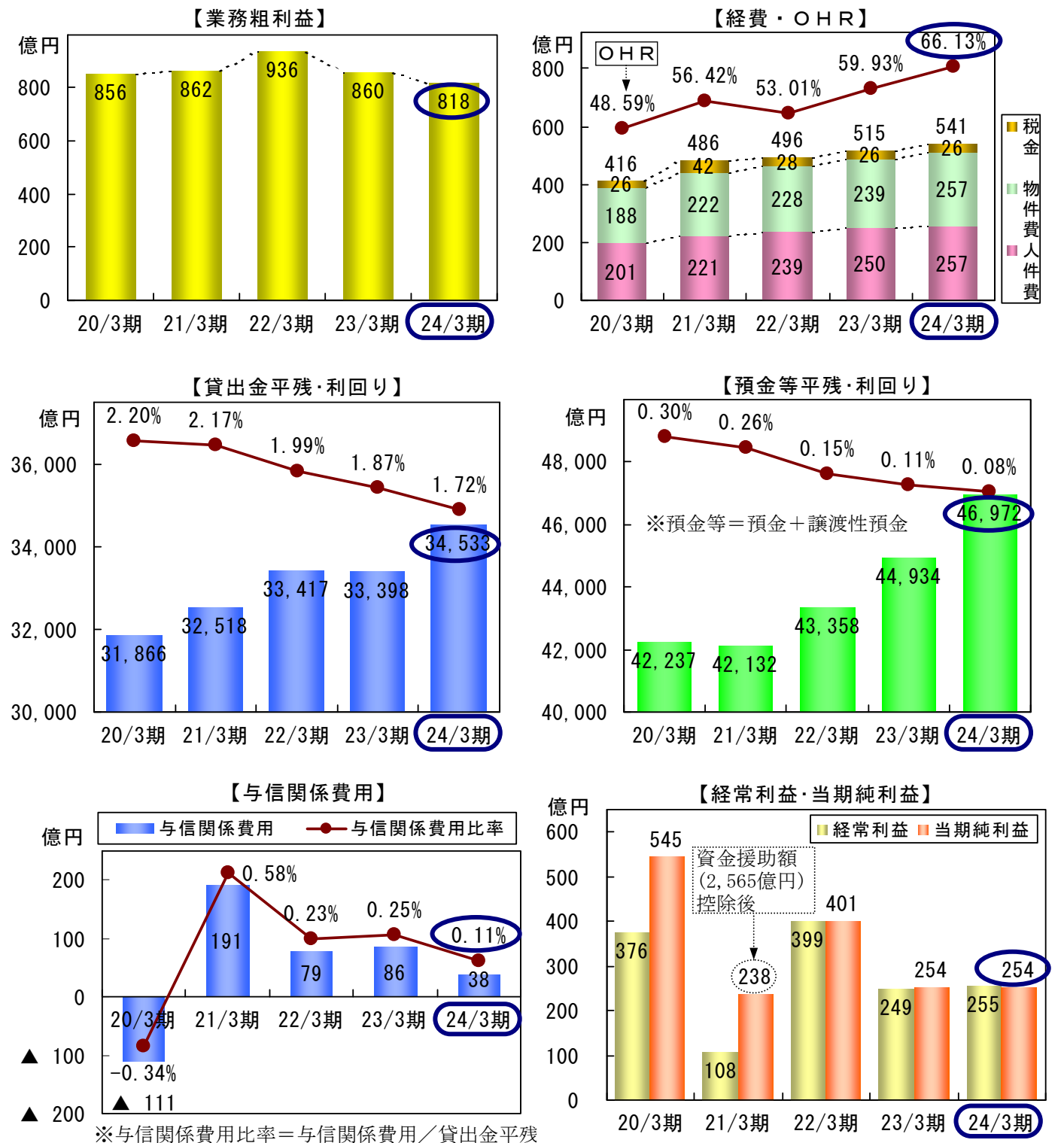
3. HD連結と銀行単体の差額の内訳

(単位：億円)

	24/3期	主な内容
当期純利益の差額	▲82	⇒HD連結171億円-銀行単体254億円
HD劣後ローン支払利息	▲33	⇒HD劣後ローン残高800億円
HDのれん償却	▲62	⇒24/3末のれん1,007億円
その他HD連結調整等	▲4	⇒有価証券関係損益の調整(※)等
銀行子会社分の損益	17	⇒銀行連結と銀行単体の当期純利益の差額

※足利銀行の保有する有価証券の取得原価が、HD連結と銀行単体で異なるため生じるものです。

4. 主な計数の推移(銀行単体)



※与信関係費用比率=与信関係費用/貸出金平残

平成24年3月期決算の概要②【主要勘定（銀行単体）】

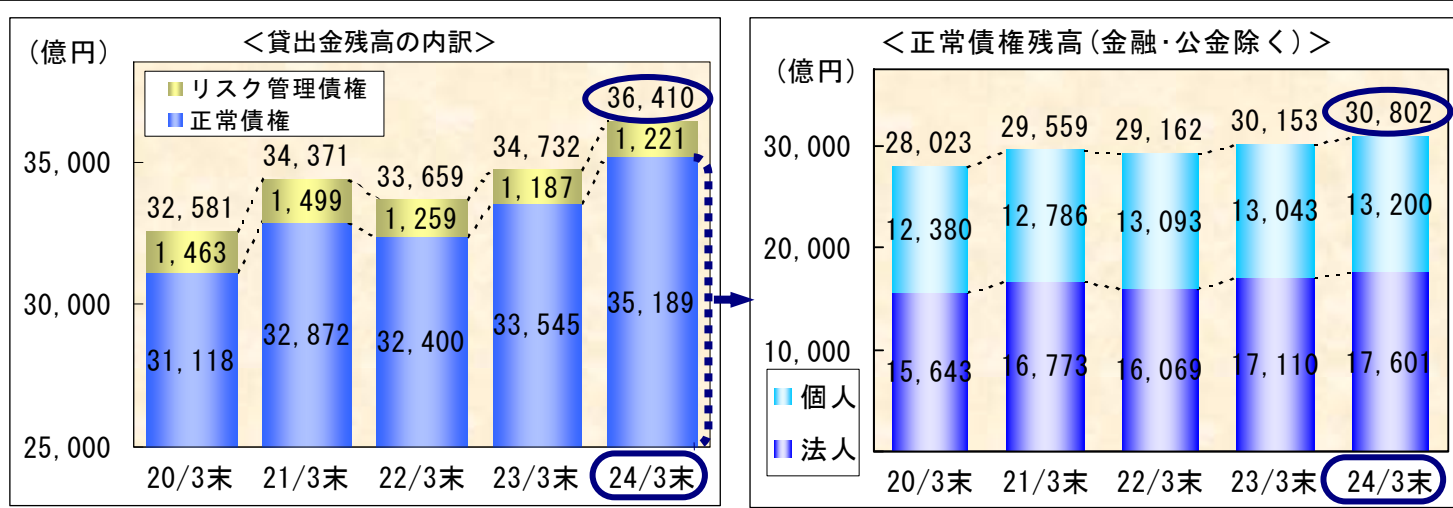
1. 貸出金

- 個人貸出と法人貸出が堅調に増加したほか、公金貸出も大きく増加したことから、貸出金残高は、前年比+1,677億円の36,410億円(年増率4.8%)となりました。
- 住宅ローンは、残高が12,183億円(同比+301億円)、件数が82,988件(同比+1,699件)に、それぞれ増加となりました。
- 法人融資先数(要管理先以上)は、21,000先(同比+449先)に増加となりました。

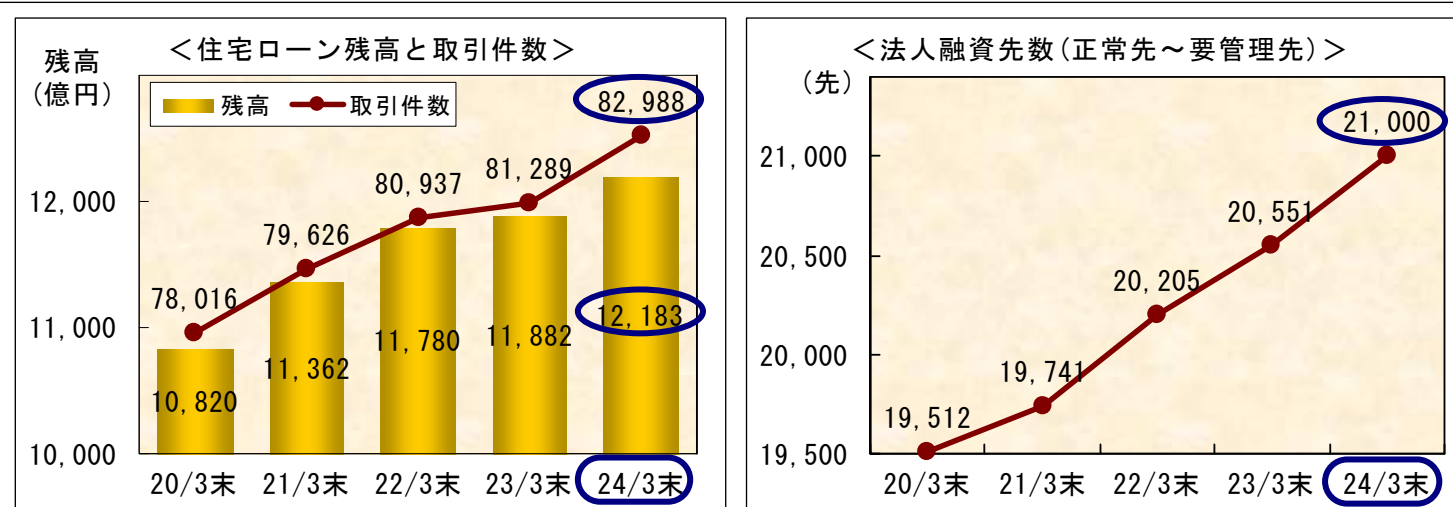
(単位：億円)

	22/3末	23/3末	24/3末	23/3末比	(年増率)
貸出金(末残)	33,659	34,732	36,410	1,677	4.8%
個人貸出	13,370	13,327	13,477	149	1.1%
うち正常債権	13,093	13,043	13,200	157	1.2%
法人貸出	17,051	18,013	18,545	532	2.9%
うち正常債権	16,069	17,110	17,601	491	2.8%
公金+金融	3,237	3,391	4,386	995	29.3%
(個人ローン)					
個人ローン	12,207	12,273	12,539	265	2.1%
うち住宅ローン	11,780	11,882	12,183	301	2.5%

【貸出金残高の推移】



【住宅ローン・法人融資先数の推移】



2. 預金・個人預り資産

- 預金等残高(預金+譲渡性預金)は、前年比+2,095億円の48,561億円(年増率4.5%)となりました。個人預金が同比+1,053億円(年増率3.3%)(実質ベース※1参照)、法人預金が同比+287億円(※1)と、それぞれ堅調に増加したほか、譲渡性預金も同比+627億円の増加となりました。
- 個人預り資産は、保険の増加により同比+169億円の6,452億円(年増率2.7%)となり、個人預金とあわせた個人金融資産残高は、同比+785億円の39,092億円(年増率2.0%)となりました。

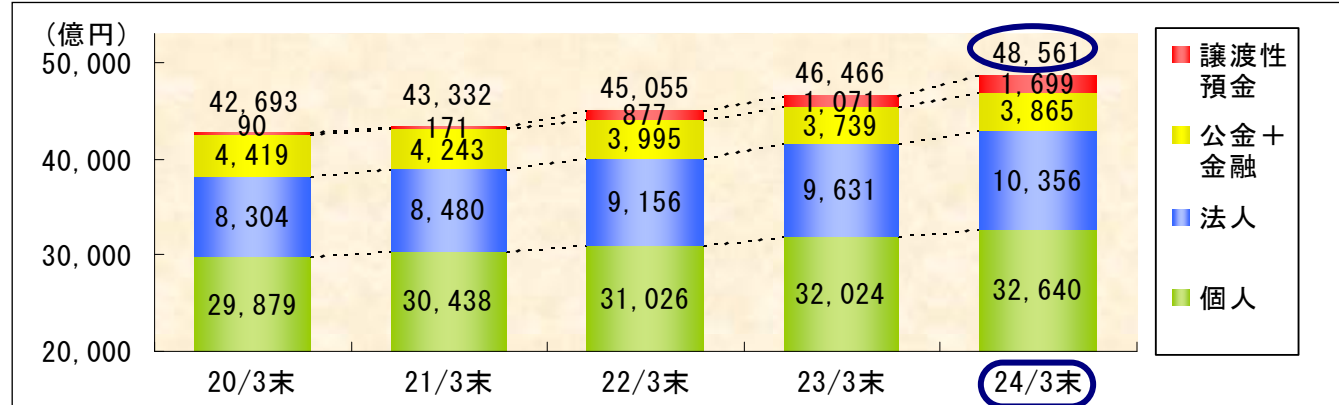
(単位：億円)

	22/3末	23/3末	24/3末	23/3末比	(年増率)
預金等残高(末残)	45,055	46,466	48,561	2,095	4.5%
預金(末残)	44,177	45,395	46,862	1,467	3.2%
個人預金 ※1	31,026 (30,621)	32,024 (31,586)	32,640 (32,640)	615 (1,053)	1.9% (3.3%)
法人預金 ※1	9,156 (9,561)	9,631 (10,069)	10,356 (10,356)	725 (287)	7.5% (2.8%)
公金+金融	3,995	3,739	3,865	126	3.3%
譲渡性預金(末残)	877	1,071	1,699	627	58.6%
(個人預り資産)					
個人預り資産	6,144	6,282	6,452	169	2.7%
投資信託	2,459	2,418	2,328	▲89	▲3.7%
債券(約定ベース)	2,238	2,069	1,941	▲127	▲6.1%
保険 ※2	1,445	1,795	2,182	387	21.5%

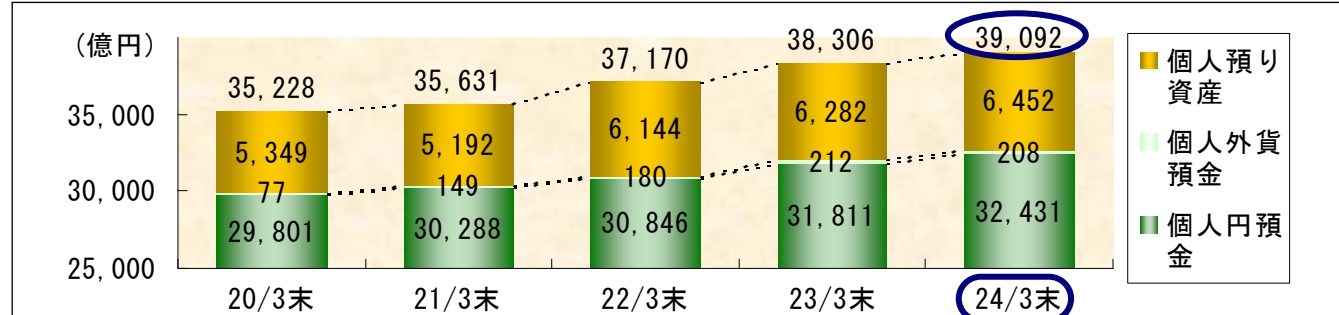
※1. 23年7月の新システムへの移行に伴い、任意団体の預金について、計上区分を「個人」から「法人」に変更いたしました。この変更を遡って調整した場合の影響額は、22/3末が405億円、23/3末が437億円であり、個人預金・法人預金の各欄下段のカッコ内の計数が、その影響額を考慮した計数(実質ベース)となります。なお、実質ベースの個人金融資産残高の増加額は、23/3末比+1,223億円(年増率3.2%)となります。

※2. 保険=個人年金保険+終身保険+学資保険

【預金等残高の推移】



【個人金融資産残高の推移】





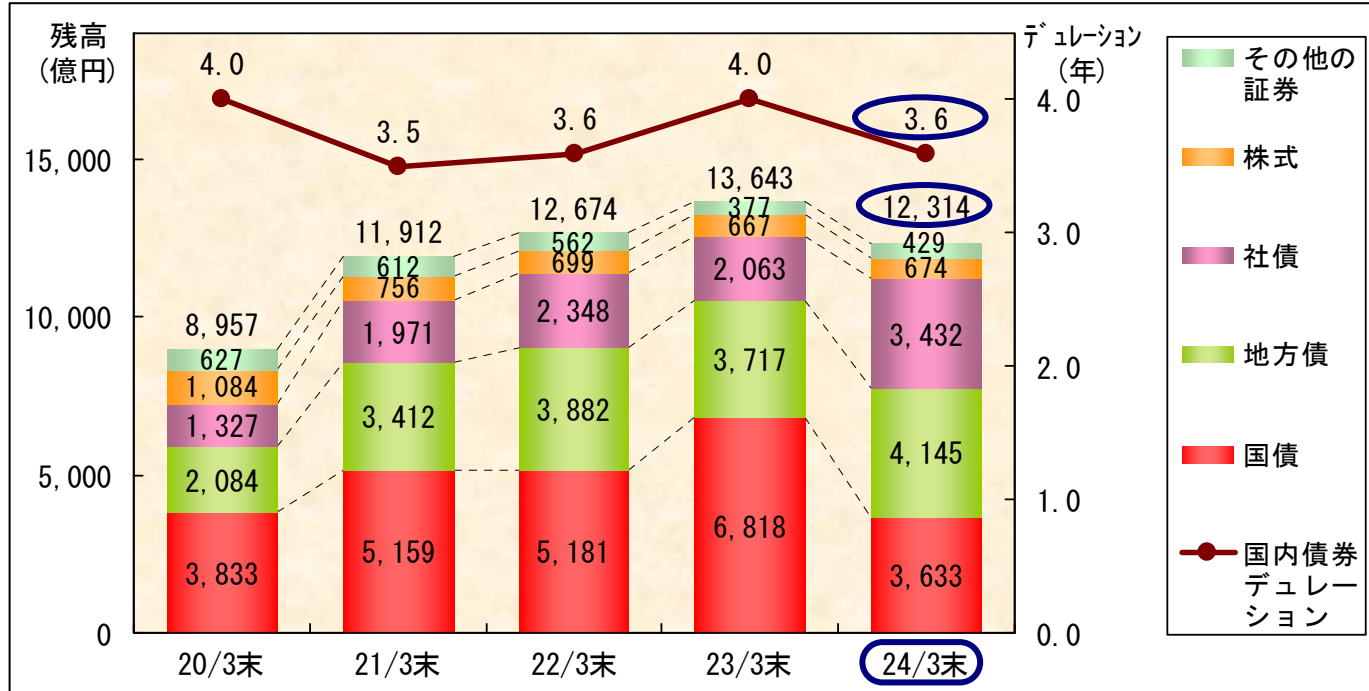
平成24年3月期決算の概要③【有価証券・不良債権・自己資本比率】

1. 有価証券の状況

(1) 有価証券残高・国内債券デュレーション（銀行単体）

- ・有価証券残高は、債券売却等により、12,314億円(前年比▲1,328億円)に減少しました。
- ・債券は、国債が3,633億円(同比▲3,185億円)に減少する一方、地方債が4,145億円(同比+427億円)、社債が3,432億円(同比+1,369億円)と、それぞれ増加いたしました。なお、国内債券のデュレーションは3.6年となりました。
- ・株式は、株価の上昇により、674億円(同比+7億円)となりました。

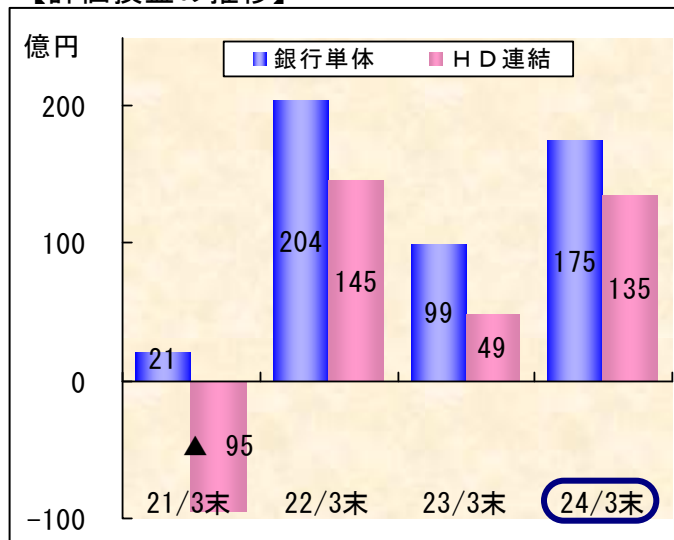
【有価証券残高と国内債券デュレーションの推移】



(2) 「その他有価証券」の評価損益

- ・有価証券の残高は減少しておりますが、「その他有価証券」の評価損益については、金利低下により債券の評価益が増加したほか、株価上昇により株式の評価益も増加したこと等から、銀行単体が175億円のプラス(前年比+75億円)、HD連結が135億円のプラス(同比+86億円)となり、いずれも前年から改善となりました。

【評価損益の推移】



【銀行単体ベース】 (単位: 億円)

	23/3末	24/3末	23/3末比
評価損益	99	175	75
債券	63	109	45
株式	79	100	21
その他	▲43	▲34	8

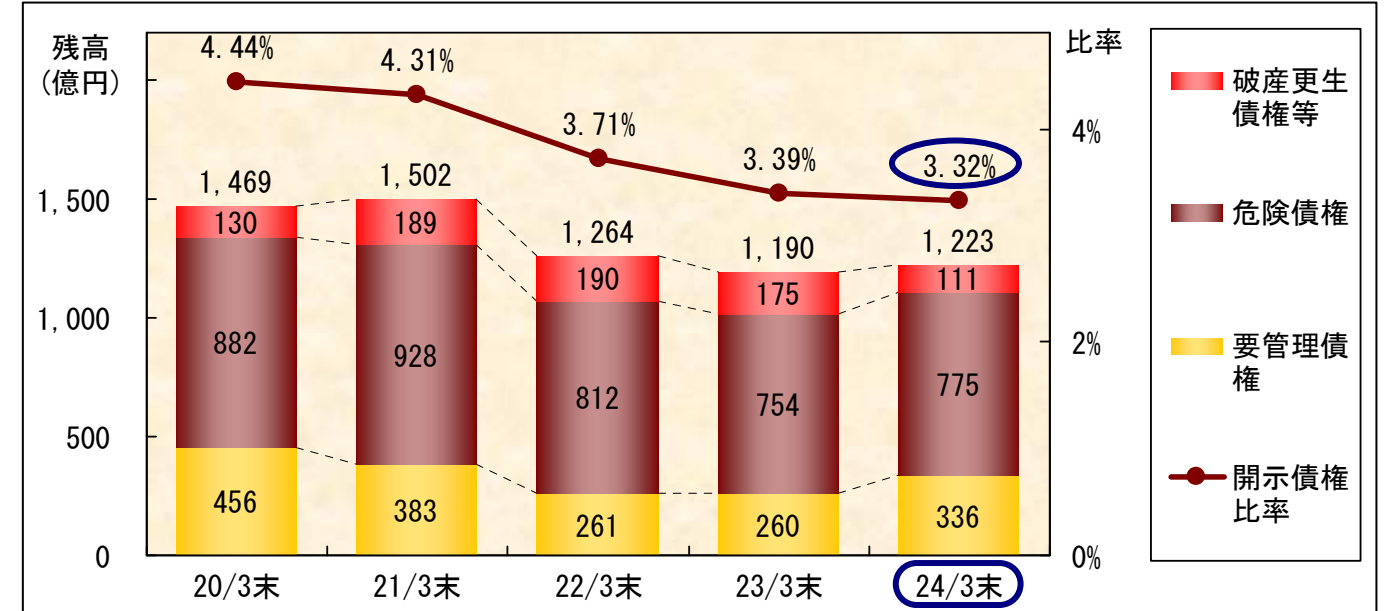
【HD連結ベース】 (単位: 億円)

	23/3末	24/3末	23/3末比
評価損益	49	135	86
債券	66	110	43
株式	8	42	34
その他	▲25	▲16	8

2. 不良債権の状況（銀行単体）

- ・不良債権残高は、前年比32億円増加の1,223億円となりましたが、正常債権も大きく増加したことから、不良債権比率は、前年比0.07%低下し3.32%となりました。

【金融再生法開示債権の推移】



3. 自己資本比率

- ・自己資本比率は、利益の着実な積み上げ等により、HD連結は9.47%(前年比+0.84%)、銀行単体は8.32%(同比+0.25%)に、それぞれ上昇いたしました。

【24/3末の自己資本比率】

(単位: 億円)

項目	HD連結			銀行単体		
	23/3末	24/3末	23/3末比	23/3末	24/3末	23/3末比
基本的項目 (Tier1) (A)	1,236	1,413	177	1,829	1,936	107
補完的項目 (Tier2) (B)	869	955	85	153	157	3
控除項目 (C)	7	6	▲0	—	—	—
自己資本額 (A)+(B)-(C)	2,098	2,362	263	1,982	2,093	111
リスク・アセット	24,300	24,925	624	24,546	25,160	613
自己資本比率	8.63%	9.47%	0.84%	8.07%	8.32%	0.25%

【自己資本比率の推移】

